**第3学年2組　算数科学習指導案**

1. **題材名**　いろいろなわり算

1. **題材について**
2. 本題材では、あまりのある場合のわり算やあまりの処理の仕方を扱う。児童はこれまでに、かけ算九九を一度適用してできるあまりのないわり算の計算の仕方を学んできている。そこで本題材では、その発展として、あまりがあるわり算を扱う。「わり算の式に表してよいか」ということを全体で確認したうえで、式を立てて計算しようとする時に、わりきれないときはあまりとして扱うことを身につけ、わり算の意味を拡張することがねらいである。

　　　　　　また、商が2位数になるわり算についても扱う。かけ算九九の範囲を超える計算でも、位ごとに分けて計算することで、既習のわり算を発展させて計算できることを見いだせるようにする。

1. 本時では、まず、63枚の折り紙を3人で同じ数ずつ分けるという問題場面を提示する。商が2位数になる（何十何）÷（1位数）の計算は、かけ算九九の範囲を超える計算である。そこで、前時扱った（何十）÷（1位数）の計算と比較し、わられる数の1の位が0ではないという問題点を明らかにする。そのうえで、わられる数を位ごとに分けることで、かけ算九九を一度適用してできる計算と、前時扱った（何十）÷（1位数）の計算を利用し、答えを求めることができるようにしていく。また、自分で問題を作成することにより、さらに確実な学習内容の定着を図っていきたい。

1. **題材の目標**

○あまりのあるわり算の計算の仕方を、既習の計算の仕方と関連させて考えようとする。（算数への関心・意欲・態度）

　○あまりのあるわり算も既習のわり算と同じように処理できることに気付くことができる。（数学的な考え方）

　○あまりのあるわり算の計算をすることができる。

あまりのあるわり算の計算を適用する問題を解決することができる。

何十や何百などを1位数でわり、商が何十や何百になるわり算の計算原理や方法を理解し、計算することができる。（数量や図形に対する技能）

　○あまりのあるわり算の意味とその計算方法を理解することができる。

　　わり算のあまりの意味や除数とあまりの大小関係を理解することができる。（数量や図形に対する知識・理解）

1. **題材の指導計画（8時間扱い）**
   1. あまりのあるわり算・・・・・・・・・・・・・・・4時間
   2. 答えが2けたになるわり算・・・・・・・・・・・・2時間（本時2/2）
   3. まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
   4. きまりを見つけよう・・・・・・・・・・・・・・・1時間
2. **本時の学習指導（6/8時）**
3. 目標

　　　　・(2位数)÷（1位数）のわり算の計算の仕方を理解している。（数量や図形に対す　　る知識・理解）

1. 展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 学習活動 | 指導上の留意点 | 時間 |
| 1. 前時を振り返る。   C　折り紙の問題を考えたよ。   1. 本時の問題場面を知り、課題をつかむ。 2. 式の立て方を考える。   C　63÷3だと思うよ。   1. 計算の仕方を考える。   C1 前習った計算と違うところは、わられる数の1の位が0ではないところだね。  C2　位ごとに分けて計算して、あとで足せばよいと思う。   1. 計算の仕方を発表する。 2. まとめ   7　自分で問題をつくる。 | ○前時扱った（何十）÷（1位数）の計算に触れ、本時の学習に生かすことができるようにする。  〈課題〉63枚のおり紙を3人で同じ数ずつ分けます。  1人分は何枚になるでしょう。  ○「同じ数ずつ分けます」「1人分は何枚になるでしょう」という言葉からわり算の式を立てられることを確認する。  ○計算の仕方の見通しを持てるようにするために、前時扱った除法と比べて、1の位が0ではないことに着目できるようにする。  ○考えることが難しい児童には、どのようにしたら、既習のわり算を使って計算できるかを問いかける。また、10のまとまりを利用して計算できないか問いかける。  ○式と答えだけでわかったつもりになることがないように、求め方を説明できるようにする。  評（2位数）÷（1位数）のわり算の計算の仕方を理解している。（数量や図形に対する知識・理解）  ○それぞれの考えを発表させ、全体で共有できるようにする。  ○発表している児童に耳を傾けられるように、似ているところや、付け足しはないかなど、聞くポイントを提示する。  ○前時扱った（何十）÷（1位数）の計算が利用できることに気付けるようにする。  ○複数の求め方の発表があった場合、よりよい方法を考えることができるように、どの求め方が早くて簡単で正確にできるか考えるようにする。  ○63を位ごとに分けて計算することで、既習のわり算を発展させて計算することができることを見いだせるようにする。  ○本時の学習内容の定着を図るために、48÷4の式になる問題を作るようにする。  ○活動に取り組みやすくするために、96÷3の式になる問題作りで例示する。  ○学び合いの環境を作ることができるように、隣の席の児童とペアで問題を作るようにする。  ○問題を作り終わったペアは、実際に問題を解き、答えを出すようにする。 | 3’  3’  3’  5’  10’  5’  16’ |

1. **備考**　在籍児童数　35名
2. **板書計画**

63枚のおり紙を3人で同じ数ずつ　　　　　　まとめ

分けます。1人分は何枚になるでしょう。　　　位ごとに分けて計算する。

〈式〉　63÷3　　　　　　　　　　　　　　 ○問題作りをしよう。

　　 　　　（例）96÷3の式になる問題

〈求め方〉　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　作りで例示

63を60と3に位ごとに分ける。

63÷3・・・60÷3=20　　　　　　　　　　　・48÷4の式になる問題

　　　　　　 3÷3=1

　　　　20＋1=21

　　　　　　　　〈答え〉　21まい